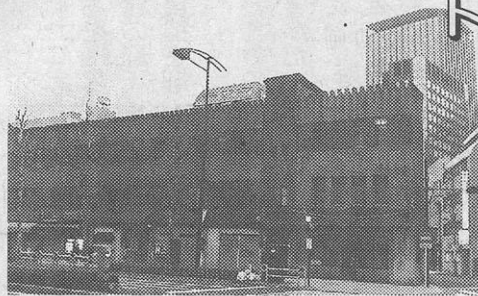


## 老朽建物の魅力生かしてイベント

老朽化ビルの魅力を生かした使用方を模索。東京・神保町にある1927年竣工の「九段下ビル」Ⅱ写真Ⅱを、イベントスペースなどとして利用するユニークな取り組みが進められている。20～23日には同ビルの一部を開放して写真展が行われ、多くの人が訪れた。

老朽化建築物は、アンティーク的な感覚から、廃虚マニアなど建築関係以外でも関心を集めている。廃虚と無価値のように思われがちだが、古家具に数万円単位の値段が付くこともまれではない。今週末には、内装や備品などを値付けする企画が予定されており、

### 築80年の九段下ビル



茶会も開かれる。

同ビルは、具体的な建て替え計画が決まっているわけではないものの、取り壊しの危機にある状態。現存しているうちに、その価値を見いだし、有効利用しようという試みだ。

一連の企画の主催者は、元竹中工務店の技術者で、現在は建築関係のデザイナー

元竹中工務店技術者の新藤典子さんが主催

事務所「領域探査デザイン」を運営する新藤典子さん。新藤さんは「九段下ビルはこのままで十分に魅力的。壁のはがれ具合など、普通ならダメだと思われるところを面白いと感じる人を楽しんでもらいたい」と話している。